

1年2組 生活科学習活動案

場 所 1年2組教室
児 童 男子21名 女子16名 計37名
指導者 藤原美樹

1 単元名 「いえでもたのしみたいね」

2 単元の目標

- (1) 家庭生活を支えている家族のことや、自分でできるようになったことについて考え、自分の役割を積極的に果たそうとする。(関心・意欲・態度)
- (2) 家族のことや家の中の仕事、仕事の実践の様子などについて自分なりに表現することができる。(思考・表現)
- (3) 家庭生活を支えている家族について、家計を支える仕事、家事に関する仕事、家族の団らん、家族で過ごす楽しみ、家族一人一人のよさなどに気付くことができる。(気付き)

3 単元について

(1) 活動材について

本単元は、学習指導要領(2)「家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどについて考え、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活することができるようにする。」の内容を受けて設定した。ここでは児童が家族とともにしていることや家族にしてもらっていることを振り返り、家族のことや自分でできることなどについて考え、自分の役割を進んで行うようになることを目指している。

「いえでもたのしみたいね」という単元は、「がっこうだいすき」「ともだちだいすき」「いきものだいすき」に次いで自分の家族をもっともっと大好きになるために設定した。

家庭は児童にとって生活の場であり、自分を支えてくれるところである。家庭生活を支えている家族のことについては、家計を支える仕事、家事に関する仕事、家族の団らん、家族で過ごす楽しみ、家族一人一人のよさなどが考えられるが、これらのことが児童にとって当たり前であるために、家族の役割や自分の役割などに気付かずに生活していることが多い。

本単元では、児童が家庭での自分の生活を振り返る活動の中で、家庭の温かさや家族の大切さに気付くだろう。そして、みんなが楽しく生活していくために自主的、自発的に家庭の仕事の分担やお手伝いを行っていくようになるものと思われる。家族に認められていくことから自信につながり、さらにこれまで意識しなかった家族の中の一員としての役割意識を持って、今後の家庭生活を送ることができると思われる。

(2) 児童について

児童は入学してから、学校探検や地域の探検を通して、自分の生活の場としての自然や人、施設の様子に気がつき活動の場を広げてきた。また学校の先生や友達、育てたアサガオや見つけた生き物と仲良しになり、それらを好きになってきている。

本単元では、今度は家族に焦点を当てる。家庭の中の仕事を行う具体的な活動を通して、大切な生活の場である家庭、家族を児童はもっともっと大好きになるとと思われる。ここでは児童によって家族構成や生活の様子が異なっていることから、家庭環境に十分配慮し、家庭の理解と協力を得られるようにしていく。

1年2組では37人中、8人が父親または母親不在という実態であり、ほとんどが核家族である。また、共働き家庭が多く、学校から家に帰っても家族と過ごす時間が短い児童もいる。そのような実態を踏まえ、それぞれの家族の違いやよさを認め、安心して学習に取り組み、自分の家庭を見つめることができるようにしたい。

家庭での仕事については、自分の仕事を持って毎日続けている児童は少ない。また夏休みに自分の仕事を決めて取り組んだ様子を見ても、意欲的に継続できたとは言いがたく、児童は家庭の中で

の

自分の役割に気付いていない状況である。仕事に取り組む前にまず、家族の生活に目を向け、家庭内の仕事に気付かせることで、「自分もやってみたい」「おもしろそうだな」という思いをもつ過程を大切にしたい。そして本単元の活動を通して、自分の仕事、自分ができたことへの満足感、家族の大切さに気づき、今後の家庭生活の中で、自分の役割を果たしていこうとする主体性を徐々に見つけていくことを願っている。

(3) 指導にあたって

本単元は、家族のことや自分でできることなどについて考え、自分の役割を果たし、家庭の温かさや家族の大切さを感じ取らせていくことを目指している。そして、国語科「よくきいてあてよう わたしはなんでしょう」と関連させて、家庭で調べたり、実践したりしたことの中から、児童が話したい、知らせたい、話し合いたいという思いや願いを生かすような場の設定を工夫した言語活動を取り入れていく。

「つかむ」段階では、家族ということに意識がない児童に、単元全体の見通しを持たせるために、「もっともっと だいすきになろう ぼく、わたしのかぞく」という活動のテーマをもたせていく。そして、自分ができるようになったことや大好きな家族のことを話したり聞いたりすることができるような目的意識を持った学習を進めていくようにする。

「さぐる」段階では、まず日曜日の自分や家族の1日について、漠然とした取材をし、家庭ということに目を向けさせていく。家庭を取材したことの中から音に焦点を当て、仕事ということの意識を明確にさせていく。その際子どもたちが興味を持って活動できるように、ゲームを取り入れて進めていく。その具体的な体験をもとに五感を使って調査したことを聞いたり話したりすることによって、家庭での仕事あるいは家族について気付かせていきたいと考える。家庭での実践を相互交流した中で、自己評価をさせたり、軌道修正をさせたりしながら支援していく。発表会では家族の仕事について分かりやすく伝えるために、どんなことを話したらよいか、伝えたい事柄の内容を、国語科の「よくきいてあてよう」の学習で培った能力を取り入れながら自分が挑戦しているものは何か、挑戦してみてどうなのか、自分と家族との関わりはどうなのかという三つの事柄を話せばよいことを支援していく。その際、色別のカードを使って三つの事柄が入っているか評価しながら聞くことができるようにしていく。

「まとめる」段階では、仕事に取り組んできたことを振り返り、世界に一つだけの絵本を作成する。絵本は新しく作るのではなく、今まで使用してきたカード類を貼ったりまとめたりするだけの簡単なものにする。絵本を作ることが主たる目的ではなく、振り返ることで家族とのつながり、家庭の温かさに気付かせるように支援していく。

「いかす」段階では、家族の一員として取り組んできた自分の仕事をがんばったことや自分の家族の温かさに触れ、自分の家族を大切にしていこうとする意欲付けを図るために、事前に家族からいただいた手紙をこの場面で初めて提示する。

どの段階でも、児童の活動を共感的な態度で受容し、安心して学習に取り組めるように見守っていく。児童が自分のよさや友だちのよさを認め合いながら成就感、満足感をもてるようにしていきたい。

4 単元の活動計画 13時間扱い

段階	主な活動	時間	児童の活動を支援するための手だて	評価の観点と評価計画	活動形態
つかむ	1 家族と生活していて楽しいことについて、自由に話し合う。	1	・ 単元全体の見通しをもたせるために、テーマを提示し、活動のめあてをもたせる。	(関)自分の家族について、積極的に発表しようとしていたか。 <発言、発表内容>	全体
さぐる	2 日曜日の自分や家族の1日について、もっと もっと だいすきになろう ぼく、わたしのかぞく	1	・ 取材とはどのようなことなのか、具体的にワークシートを使いながら捉えさせていく。	(関)家族の1日について調べようとしていたか。 <つぶやき・発表内容> (思)取材の仕方が分かったか。 <行重観察> (思)取材したことをカードに記入することができたか。 <カード>	全体 個人
	3 調べてきた中から、音に着目し、音あてゲームをしながら「仕事」に絞っていく。	1 本時	・ 日曜日の自分の1日について、家族と一緒に楽しんでいることや仕事をしていることを音を通して気付くようにしていく。 ・ ゲーム形式を取り入れることで、興味・関心を高めながらいろいろな仕事があることに気付かせる。	(気)音を聞くことを通して、家庭にはいろいろな仕事があるということに気付くことができたか。 <発言・発表内容、つぶやき>	全体
	4 自分でも家で音を集めてくる。集めた音を国語科との関連で、「よくきいて、あてよう わたしはなんでしよう」ゲームをし、自分がチャレンジしたい仕事を決める。	1	・ それぞれの家で集めてきた音の中から、音あてゲームに出したい音を選ばせ、当ててほしい仕事の特徴を聞き手に分かりやすく説明するためにゲーム形式を取り入れる。その際、聞いたり話したりしやすくするために、基本語型を提示する。 ・ 相互交流をした中で、自分できそうな仕事を方向付けていく。決まらない児童には、仕事で使う道具のいくつかを提示し、イメージを膨らませ、選ぶことができるようにしていく。	(関)集めてきた音を話したり、友だちの音を聞いたりしようとしたか。 <話し合いの様子・行重観察・評価カード> (思)友達の音の発表を聞いて、自分がこれから挑戦していきたい仕事について、決めることができたか。 <ワークシート>	全体
		1	・ 1週間分の大まかな計画表を提		個人

	5 前時に決めた仕事の簡単な計画を立てる。 家庭での実践		示し、決めた仕事が具体的に進められるようにしていく。 ・ 仕事は家庭での活動が主となるので、継続できるように学級便り等を活用して家庭への協力を求めていく。	(思) 計画表を作ることができたか。 <話し合い・ワークシート>	
	6 実践している仕事のミニ報告会をし、学び合いをする。 家庭での実践	2	・ 相互の学び合いの中で、他の仕事へも目を向けさせ、気付きを広げていく。 ・ 実践の経過を発表し、意見交流をすることで軌道修正を図り、今後の実践に生かせるようにする。 ・ 活動が停滞している子どもには、具体的にアドバイスをしたり、励ましたりする。	(思) 今まで家庭で取り組んできたことを振り返り、友だちに話すことができたか。 <自己評価・発表の様子> (気) 友達の発表を聞いて、できそうな他の仕事に気付くことができたか。 <行動観察・評価カード>	全体 グループ
	7 継続してきた仕事をお互いに交流し合う。 家庭での実践	1	・ 繰り返し交流することで、活動への意欲を持続させたり、お互いのよさを認めたり、がんばっている児童を賞賛したりして自分の仕事への達成感を持たせていく。	(思) 今まで家庭で取り組んできたことを振り返り、友達に話すことができたか。	全体 グループ
	8 できるようになったことを振り返り、発表の準備をし、発表する。	2	・ 児童同士の相互交流の場を設定することで、できるようになったこと、大変だったこと、うれしかったこと等を発表して達成感を味わわせていく。 ・ 発表会を楽しめるようにテレビ模型やマイク等の準備をする。	<自己評価・発表の様子> (関) 友達の素情らしかったところを見つけようとしたか。 。 <発言・行動観察> (思) 継続して取り組んできた仕事を振り返り、分かりやすく発表することができたか。 <発表態度・内容>	個人 全体
ま と め る	9 活動を振り返って、絵本にまとめる。	1	・ 今までの活動を蓄積したカードをもとに振り返り、そのカードに自分が取り組んできたことを書いたり、友達に賞状をあげ、その賞状を絵本に貼ったりすることで自分だけの家族の絵本を作り、喜びを持たせていく。 ・ まとめることによって、家族の一員としての自分の役割に気付くとともに、家庭生活をよりよくするためにこれからも仕事をしていくように意欲を高める。	(思) 自分の仕事を中心とした絵本を作ることができたか。 。 <作品>	個人 グループ
い か す	10 自分の家庭内における役割や家族の温かさに気付き、今後も自分の役割を実	2	・ 家族へ感謝の気持ちを伝えるために手紙を書く。事前に集めた家庭から子どもへの手紙を渡し、	(関) 家庭の自分の仕事に続けて取り組もうとしていたか。 <作品・家族からの手紙>	個人

践する。	家庭の温かさや家族の大切さを改めて感じられるようにする。 ・家庭の仕事の分担やお手伝いはみんなが楽しく生活していくためのものであるということに気付かせる。	(思) 家族が喜ぶことを見つけたり、家族が楽しくなるようなことを工夫したりしていたか。 <作品 カード>
------	--	---

5 本時の学習活動

(1) ねらい

- ・家族の1日取材し、家族の役割を知ろうとする。
- ・家庭で見つけた音を聞くことによって、仕事の様子に気付くことができる。

(1) 展開

段階	学習活動	時間	教師の支援(*)と評価()
つ	1 前時の活動を振り返る。 いえのなかのおとをさがそう	3分	* 前時で学んだことをもとに取材できたことを褒め、学習意欲を高めていく。
む	2 本時のめあてを確認する。		* 探してきた家の中のことから、本時は音に着目して学習することを確認する。
さ ぐ る	3 家族の1日について調べてきたことを発表する。 4 発表をもとに仕事の音を集めたものを聞かせ、音あてゲームをする。	35分	* 数人に指名をし、発表させることによって学習意欲を高めていく。 * 調べてきたことの中から、仕事に焦点を当てたゲームをすることによって、仕事には音が伴うということを理解させ、家庭の中には仕事があるということに気付かせる。 * 単なる興味本位のゲームにならないように自分の家庭にある音と照らし合わせながら根拠をもとにして聞いたり話したりできるようにする。 * ゲームの中で答えるときには根拠も言えるように、話型を提示する。 * 答えが分かれてしまう音については、1対1、グループに分かれて話し合いをさせていく。 * 子どもたちの理解を深めるために、写真を提示し 音と仕事を一致させる。 音を通して、家庭の中の仕事に気付くことができたか。 自分の家庭の仕事について、調べたことを発表しようとしたか。

ま と め る	5 本時の学習を振り返る。	5分	* 本時の学習について口頭で発表させ、賞賛して成就感がもてるようにしていく
い か す	6 次時の内容を知る。	2分	* 次時は、子どもたちが出題者になってゲームをするということを知らせ、家庭での生活の音を探させるようにしていく。